

集落支援員だより

第 12号

発行者 東和地域集落支援員

連絡先 66-2490

発行日 令和2年 4月24日

地域を思う 人を思う

今回、木幡字仲之内の石川重彦さんに一言いただきました。

今、思う事

今、話題になっっている事といえば、何と言っても新型コロナウイルスであると思います。



感染した人が近所に居る訳でもないのに、他山の石のような話ですが、学校が休

校になるとか、大きな集会を自粛するように指導されたり息苦しく感じているのは私だけでしょうか？

昨年十月十二日の台風十九号の傷跡がまだ回復の途中なのに、悪い事が連続して起こり、気の休まる時がないのが現実です。

こんな時こそ、皆で元気に頑張っって行こうと思うのですが、元々私たちが住む中山間地集落には難題、また課題が多くあり、なかなか上手くいきません。

「地域を活性化したい」「地域に賑やかさを取り戻したい」と口で

言うのは簡単ですが、いざ行動に移し結果を出すには大変な事です。

そのような中で、常々思い巡らせているプチ提案があります。

現在、お年寄りの健康寿命が大幅に改善され元気なお年寄りが各方面で活躍されている姿を目にします。

そこで、集落においては、新しい品目の野菜づくりをして楽しんでもらう、丹精込めて作った野菜を美味しくいただく、愛情込めて作ったものは、格別で最高の味がすると思います。

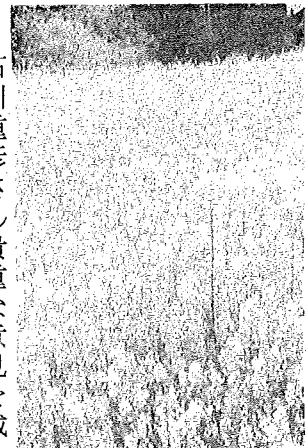
また、地域に住む人達が、こぞって協力し合い休耕地や野山に草木花の苗を植えてみる、綺麗な花を見ることにより心は晴れ人々はきつと笑顔になると思います。

色々な法方はあるでしょうが故郷の野山を花でいっぱいにすると言う事はどうでしょう。

やがて沢山の人々が東和に足を運ぶ事になるかもしれません。

今、この東和に住んでいる人々が同じ思いを持って今を楽しく

生きる事が一番の「地域おこし」かなと思っております。



石川重彦さん貴重な意見を戴き有難う御座いました。

今、集落では

戸沢四区いきいきサロン料理教室開かれる

令和二年二月九日(日)いきいきサロン料理教室が四区集会所にて開催されました。

本多博一会長の挨拶の後、講師



の大原陽子さんより今回はハンバーグ、人参スープ、キャベツロールサラダ、それにリンゴと、盛沢山のメニューの発表がありました。

大原さんの豊富な経験により

作業の手順やポイント、それに調味料の分量などを詳しく説明して頂き、参加された子供達も手伝って和やかな雰囲気の中で進められました。

やがて室内には香ばしさが漂い始めると男性陣も調理に加わり、まさに「男子厨房に入り浸り」といった光景でもありました。

試食タイムになると、大原さん本場仕込みのそれぞれのメニューの美味しさに酔いしれ全てにご満悦といった様子でした。



参加された方々は、今回で料理のレパートリーも増えたので次の休みにチャレンジしてみたいという家族もあり、また次回の催しも楽しみにしていますという声も聞かれました。

皆さんお疲れさんでした

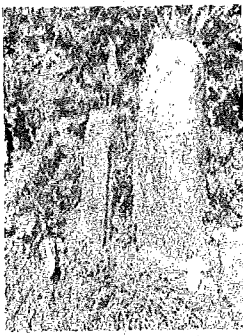
隠れ文化財

車で道を走っていると道路の分岐点などに道路標識、表示等が目立ちます。

今では、綺麗に色付けされた鉄製の道標が設置され、車社会に適応された看板となっております。

昔の道標は、街道の分岐点に立てられた交通標識であり、道路に目的地までの距離や、方向を示す為に設置されたものであり、自動車交通が発展する以前に造られたものがあります。日本においては石などで作られたものは、江戸時代頃に設置されたものが多いようです。

東和地区にも数多くの道標が要所要所に立てられているのが見られます。県道原町二本松線、太田深田地内、服部行雄さん宅の南側にも石柱があり、「東にはりみち」「西にはほんまつ」「北にはた」と彫られており、文字は鮮明ではありませんが、正に歴史を感じさせられるものです。



服部さんは、道路沿いであるので壊されたりはしないか心配とか、歴史に触れてみたいという方は一度足を止めてみて

はいかがでしようか。

今、地域で活動している団体

とうわ奥入瀬を守る会

東和地内には、大小合わせて三本の川が流れていて、一番大きい川が安達太田川です。

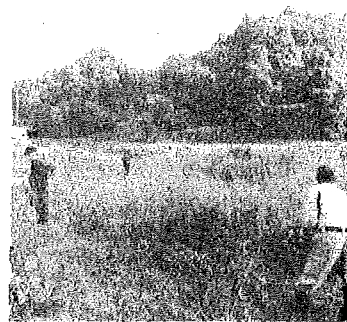
古くは、一〇五一年〜一〇六三年、当時源義家が安倍宗任、貞任を追って奥州へ攻め入った際、馬の汚れを洗い流したと言われているのが、馬洗い川と、言い伝えられています。

今では、穏やかな川の流れ、水の清らかさなどを相称し、青森県の奥入瀬溪流に似ていると言う事で、「とうわの奥入瀬」と命名されたようです。春は桜、それに藤、夏には川遊び、秋には紅葉など一年を通じて楽しめるロケーションとなっております。おり訪れる人も年々増えてきているようです。



以前は、白髭集落外れ(岩代町との境)に、上太田小学校があり県道萩の田石沢

線を上り通学をしていました、その県道と川沿いには、杉の木が植林され、昼なお道は暗く、藪が法面をも覆い、子供時分にはあまり良い通学路とは言えない状態でした。



そんなおり、「とうわ奥入瀬を守る会」が結成され初代会長に太田鷹一集落の安斎正三(故)さんが推薦され「とうわ奥入瀬」を守る会の活動が開始されました。

協力者は太田地区の集落五集落、西谷集落二十七名、寺坂集落十五名、鷹一集落二十四名、鷹二集落二十六名、白髭集落二十四名、それに東和塾の方二十六名も快く申し出、協力をいただいています。活動内容は、六月から十月まで、川の法面の草刈り、流木の処理、県道萩の田石沢線の空き缶拾い、車両往來の妨げになるような立木の伐採、花壇の管理など多岐にわたり進めています。

何せ足場の悪い所での作業なので安全には気を付けて進めてもらいたいものです。

自主防災活動促進事業について

地震、台風、洪水、土砂災害などが発生した時、自分達が住んでいる地域では、防災や、減災の為にどのような事をすれば良いのか解らず、結果的に地域の一部に甚大な被害を被る、という結果にもなりかねません。

「自分の身は自分で守る」「地域の安全は地域で守る」と言う事は安全の鉄則であり、その教えは誰しも常に心にとどめ置き行動することが大事であります。

福島県では、防災活動を地域で活動する新たな組織に対し支援し、活動に必要な経費の補助をするなど、その事業を支援する講師の派遣もしてくるそうです。



地球環境等が危ぶまれ、何が起こるか解らなくなつて来ている現在、地域として早めに防災に対するノウハウを習得し安全な地域づくりが急務ではないでしょうか、この際、集落で、自主防災組織を結成し地域の和と安全意識をさらに高められますよう希望いたします。

お問い合わせは東和支所へ